

ショー・ドクター



著 ジェフ・マクブライド
訳 谷口和巖 滝沢敦

THEORY AND ART
OF MAGIC PRESS



 **scriptmaneuver**

最愛の人であり私のミューズである
ナース・アビーに
本書を捧げる

No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or by any means electronic, mechanical, photocopying, including photocopy, recording or any information storage and retrieval system now known or to be invented, without permission in writing from the publishers.

© 2015 - 2018 by McBride Magic, Inc. and Lawrence Hass

一流のプロマジシャンによるショー・ドクターの感想

ランス・バートン

もしあなたが今年マジックの本を一冊しか読めないなら、ショー・ドクターにすべきだ。アクトの質を向上させるための様々な素晴らしい内容が書いてある。現代に生きる一流マジシャンによる、本当の現場に即したプロフェッショナルなアドバイスだ。またジェフが実際に演じているキラー・エフェクトも学ぶ事ができる。私がマジックを始めたときにこういう本があれば良かったと、切実に思うよ！

マック・キング

私はジェフのコラムをずっと読んできたし、彼のマスター・クラスにも何度も参加した。あなたのマジック・ショーを向上させるのに、彼以上の案内役はいないと心から思うよ。

マックス・メイヴェン

何千年も前に、ローマの哲学者セネカは次のように言った。「人々は医者の治療に対しては、対価を支払ったかもしれない。しかし治療してくれた善意に対しては、借りがあるままなのだ」。この言葉通り、我々はみなショー・ドクターに借りがある。借りを返すには、まずこの本を買うことから始めよう。君のマジックはより健全になれるだろう。

ユージン・バーガー

この20年間、ジェフとは緊密に仕事をしてきた。その中で彼が数え切れないほどのマジシャンたちにインスピレーションを与え、その演技をがらっと変えていくのを見てきた。彼はマジックを教える名手だ。この本を読めばその理由が分かるだろう。この本は、ジェフの長年にわたる驚異的なキャリアから得られた貴重なレッスンで溢れている。

ケビン・ジェームス

この本には金言が充ち満ちている。もっとクリエイティブになるための、またよりよいパフォーマーになるためのアドバイスを探しているなら、もう他を探す必要はない。この本こそ、何度読み返しても新しい発見がある最高の情報源だ。

エバーハード・リーゼ

ジェフ・マクブライドは、現代のマジック界で最も影響力のあるアーティストの一人です。才能溢れるパフォーマーであるだけでなく、カリスマ性のある教師であるからこそ、本当の現場の仕事を伝え、教えられる。私は彼が生徒たちに対して情熱をもってエネルギーにぶつかっていく様子を、直に見てきました。その献身具合は並ではない。彼に教われれば、どんな種類のマジシャンであっても何かを得ることができましょう。

目次

共同執筆者の言葉	6
前書き	10
イントロダクション：ドクターのお出ました！	12

第1年：授業課程

第1章：低頭症候群	20
第2章：過剰屈伸	24
第3章：断続的脳停止状態	27
第4章：まばたき症候群	32
第5章：ディスリ癖	37
第6章：震戦（あるいは神経露出）	40
第7章：浪費体質	45
第8章：硬直状態	48
第9章：練習不全	51
第10章：過剰投与	54
第11章：流行病	58
第12章：肥満体質	62

実習科目：第1年

実習1：ムドラ・コイン	68
実習2：パーフェクト・マッチ	73
実習3：マーキュリー・ボール	81

第2年：ローテーション

第13章：火への憧憬	92
第14章：影薄症	98
第15章：冷やかしへの対処	101
第16章：笑えない悩み	104
第17章：拍手	107
第18章：広告・DVD・映像中毒	110
第19章：ウソと罪悪感	116
第20章：多汗症	119
第21章：ステージ不応症候群	123
第22章：鳥インフルエンザ	126
第23章：大いなるまやかし	129
第24章：口を開けて！	132

実習科目：第2年

実習4：タイムトラベル・カード	138
実習5：ヴァンパイア・カードスタブ	147

実習 6 : パット・ページ・フラワー・プロダクション	158
実習 7 : トーストマスター	165

第 3 年 : 研修課程

第 25 章 : 言語障害	174
第 26 章 : 縫合せよ !	177
第 27 章 : 傾聴機能障害	182
第 28 章 : カンフル剤	185
第 29 章 : 露出症	188
第 30 章 : 往診	192
第 31 章 : マジック道具依存症	195
第 32 章 : クローン	200
第 33 章 : レギュラー出演	206
第 34 章 : 乳幼児突然死症候群	209
第 35 章 : 手術台を選ぶ	214
第 36 章 : 自然選択	218

実習科目 : 第 3 年

実習 8 : ファースト・キス	224
実習 9 : ダブル・ショット !	233
実習 10 : 理想の品物	239

第 4 年 : 集中治療室

第 37 章 : 軽口とからかい	246
第 38 章 : インターンシップ	249
第 39 章 : 成功するための服装	252
第 40 章 : 深呼吸	255
第 41 章 : 健康的な増量	258
第 42 章 : 児童虐待	261
第 43 章 : 売り込みベタ	264
第 44 章 : 乗り物酔い	268
第 45 章 : 術前、術後	272
第 46 章 : バンドエイド	275
第 47 章 : 劇場運営	278
第 48 章 : 最後に	281

実習科目 : 第 4 年

実習 11 : Mr. フーの消失	288
課外授業 : ショーはいつ始まるのか ?	296

参考文献	307
著者について	314
セオリー & アート・オブ・マジック社	315

共同執筆者の言葉

ローレンス・ハス

2007年の前半は、仕事以外の時間をほとんど2冊の本を書くことに費やしていた。マジシャンとして初めての本である "Transformations: Creating Magic Out of Tricks" と、哲学者モーリス・メルロ＝ポンティに関する学術書だ。その期間はほとんど家から出なかった。

そのときはマジックの最新情報も、まったく仕入れていなかった。しかし2007年の夏ごろから新しい本や雑誌を読めるようになると、友人でありセオリー・&アート・オブ・マジックというセミナーのパートナーであるジェフ・マクブライドの新しいコラムの連載が、"MAGIC Magazine" で始まっていた。それは "Ask the Show Doctor (ショー・ドクターに聞け)" というタイトルだったが、まずそのネーミングが素晴らしいと思った。

毎月その雑誌を開いて真っ先に読むのが、そのコラムだった。読んでいて面白く知的であり、ヘルメスのようなエネルギーとウィットに富んでいたが、何よりも賢さがにじみ出ている。ショー・ビジネスの全てを知っている人間にしか出せないような知恵だ。あらゆる大きさの会場で、考えられる限りの種類のショーを何千回も行ってきた人間による、プロフェッショナルなアドバイスが詰まっていたのだ。そしてその内容は、情け容赦なく誠実だった。ジェフは彼自身がしでかしてきた恥ずかしい失敗をいくつも挙げ、そこからの学びを紹介してくれる。また“手加減”もなかった。ショーを台無しにする要素に対しては率直な、時には耳の痛いアドバイスを書き、またすべてのマジシャンが直面する、しかし気づきにくかったり、認めるには恥ずかしすぎたりエゴが邪魔をするような根の深い問題を正面から取り上げていた。

"Ask the Show Doctor" のコラムは、私にとって雷に打たれたような衝撃があった。いくらかのショックはあったが、しかし同時にエネルギーに満ち、感動に溢れていた。読者をこき下ろすのではなく説教くさくなるわけでもなくインスピレーションを与えるようなコラムになっていたのは、あらゆる優秀な教師が使うツールであるところの大きいユーモアと愛を以て文章が書かれていたからだ。

2009年の冬にマジック・キャッスルでマジック&ミステリー・スクール・ウィークとしてショーを行ったとき、私はジェフにこのコラムを最終的には本にまとめたらどうか

と提案した。そのとき思っていたのは（今でもそう思うが）、世界中で長年パフォーマンスしているプロフェッショナルによる、マジックのショー・ビジネスに関して他に類を見ないアドバイスが読めるコラムになれば良い、というものだった。真剣なマジシャンであれば、そこから学べないものなんてないはずだ。そんな内容を読まずに、また楽しまずにいられないマジシャンなんているだろうか？ ハリー・ブラックストーンがそんな本を書いていたら、と想像してみたい。サーストンやダンテがそんな本を書いていたらどうなっていたらだろうか。私はジェフに、一緒に取り組むかどうかは脇において、一冊の本にまとめるべきだと言った。長年読み継がれる内容になるのが分かっていたからだ。それを聞くとジェフは「やろう！」と即答し、握手のために手を突き出した。やり取りはたったそれだけだった。ジェフ・マクブライドは、そういう男なのだ。それから二年以上たち、本は完成し、いまあなたの手元にある。

その会話がなされた 2009 年から今までの間に、数え切れない出来事が起こった。例えばジェフは "MAGIC Magazine" での連載を一年延長した。その間に私はすべての記事を集め、そのほとんどを打ち直し、詳細に見直し、編集し、体裁を整えた。

同時に我々は、ジェフの未公開の最新手順をそれなりの量（正確には 11 手順）発表する良い機会だとも考えた。コラムの内容を反映しているだけでなく、幅広い会場やスタイル（例えばステージ・イリュージョンからスタンダップ、マニピュレーション、クローズアップ、カード、メンタリズムにいたるまで）で演じられるものを選んだ。そのために多くの打ち合わせや映像撮影、写真撮影をし、何度も書き直しを行った。

それに加え、我々はまた違う形の内容も盛り込みたかった。例えば、多くの章の最後に加えられた新しいインタビュー記事や、結局掲載されずに終わった未発表のコラム、2011 年の 3 月に行われたマスター・クラスで語られた重要な内容の書き起こし、本文の書き足しなどである。最終的にこの本には、"MAGIC Magazine" に掲載されたオリジナルの内容に 45,000 語分の追記がなされた。もし雑誌に掲載された記事をすべて読んでいたとしても、あなたは「まだ全てを読んだ」ことにはならない。

この本を完成させるまでに受けた計り知れない助けや愛情、友情に対して感謝したい人が大勢いる。

まず "MAGIC Magazine" の編集者であるスタン・アレンに深い謝意を表したい。彼は "Ask the Show Doctor" の記事の書き方や発表に関して大きな役割を果たした。4 年におよぶ掲載の中で、スタンのサポート、アシスト、素晴らしい編集に関するアドバイスに関してジェフは大きな借りがある。ジェフはまた "MAGIC Magazine" の編集とデ

ザインに関わったスタッフにも感謝している。またスタンには、コラムの全編（2007年1月～2010年12月まで）を再出版する許可をくれたことにも感謝したい。

また友人であり教師であるユージン・バーガーにも深い感謝を表したい。我々はお互いにそれぞれの形で（この本に関しては共に）、ユージンの変わらぬサポートと賢い助言に助けられて来た。ほとんどのマジシャンはユージンのことを世界的なマジシャンであり教えることの名人だと認識しているが、それだけでなく彼は人やプロジェクト、置かれた状況の本質を見抜く人並み外れた力を持っており、それ以上は改善が見込めなくなるまで相手を助けることができるのだ。あなたがしてくれたすべての事に感謝するよ、ユージン。

ジェフと私は何度も言い合っているのだが、お互いにアビー・スピナー・マクブライドとマージョリー・ハスというすばらしい伴侶を持ち得たことはなんとという幸運だろうと思う。ジェフが本書で書いた通り、「看護士アビー」によるクリエイティブな、また実際的なアシストなしではショー・ドクターは存在できなかった（もしくは締め切りを守れなかった！）だろう。私の仕事だって「マジ学長」の手助けと励ましがなしにはとても成し遂げられなかった。ヘシオドスは次のように書いている。ゼウスと女神ムネーモシュネーの娘であるミューズは芸術家にインスピレーションを与える存在であるが、3柱で一組の存在なのだ、と。もしそうなら、ジェフと私は神々に祝福されていることになる。人生を共にしてくれる妻たちに、我々は大きな感謝をしている。

また親しい友人やマジックの世界のファミリーにも感謝を。トビアス・ベックウィズ、ブライス・カールマン、ジェニー・ポールス、ジョージ・パーカー、マジ・リングスマ、ボブ・ニール、シーニック、ジョーダン・ライト、レオ・ディアズ、ティム・ワイズ。オースティン大学の生徒には常に言っていることだが、「アーティストは力を合わせてこそ光り輝く」のだ。これはジェフもきっと同じ気持ちだろうが、彼らのような人々と親しくでき感動を分かちあえる人生に深く感謝している。

ジェフと私は本を出版するときは必ず、大変な仕事をしてくれた裏方にもスポットをあてるようにしている。まず目がかすむくらい長い時間をかけて、原稿を印刷できるように編集してくれたアビー・マクブライドとマイク・ヘンケルに。その仕事量は本当に膨大だった。彼女らは数え切れないほどの不適切で間違った言葉遣いを見つけてくれた。もしまだそのような部分が残っていたとしたら、それは彼らではなく私の責任である。

またこの本の格式を上げてくれたアーティスト達にも感謝したい。シーニック（イラスト用の写真撮影）、アール・オクス（第1～10章までのイラスト）、ジョージ・パーカー

(第 11 章のイラスト)、クレイグ・コンレイ (本書全体を飾る禪にも通じるようなイラスト)、ビデオを撮影してくれたジョーダン・ライト、素晴らしいカバーをデザインしてくれたダンカン・イーグルソン、グラフィック・デザイナーであるブラッド・アルドリッジは多彩な要素をまとめあわせ、本書の素晴らしいレイアウトを作成してくれた。

アール・オークスがしてくれた仕事について一言触れたい。2011 年 9 月 18 日、アールは 88 歳でこの世を去った。アールはマジック関連の書籍や雑誌において、最高のイラストレーターとして長いキャリアを持っていた。この 2 年間で私が書いた 2 冊の本のイラストを担当してもらったことで、我々は親しくなった。彼は常に変わらず親切で何をするにも寛大で、自分のイラストが正確に本質を表現できているかどうか完璧な厳密さで気を配る人間だった。9 月 20 日にアールの妻であるヘレンから、彼が亡くなったとの電話を受けたときの私の悲しみは非常に大きかった。ヘレンが言うには、ショー・ドクターの原稿こそ彼の遺稿だったそうだ。アールは無くなる前に、すべての仕事を終えてくれていた。

本書では、マジック書籍の歴史に残る偉大なイラストレーターであるアール・D・オークスの最後のイラストを見ることができる。ページをめくり彼のイラストを目にするたびに、特別な楽しみを感じて欲しい。また我々の読んできた多くのマジック書籍に彩りを添えてくれた彼の遺産に、しばらく思いを馳せてほしい。

ショー・ドクターの仕事の締めくくりとして、いくつかお願いをしたい。世界中のマジシャンにはこの本を手に取り、また何年もの間書架に加えておいて欲しいと思っている。この本を持ち歩き、余白にメモやアイデアを書いて言って欲しい (そのために少し余白を大きめに取ったのだ!)。この本を実践的な教科書として活用し、楽しんで欲しい。素晴らしいマジックと目を見張るような考えが書かれている。それが確信を持って言えるのは、私自身が何度も相談してきたからだ … ショー・ドクターに!

ローレンス・ハス博士
マクブライド・マジック&ミステリー・スクール副学長
セオリー&アート・オブ・マジック・プレス創始者
オースティン大学人類学部教授
2012 年 3 月 20 日
テキサス、シャーマンにて

前書き

ケン・ウェバー

ジェフ・マクブライドにはビジョンがある。

大抵のパフォーマーは、程度の差はあれ何らかの才能を持っているものだ。そしてマジックへの情熱は、全員が持っている。何を言うにも、誰も強制されてマジシャンになっただけではないのだから。しかしマジックがどういうものであるか、どうなり得るのか、どうあるべきなのかといった事に関する芸術的なビジョンを持っている人間は少ない。ジェフ・マクブライドはその数少ない人間の一人だ。

ジェフにはガッツもある。自身もパフォーマーでありながら、他のパフォーマーを改善する提案をするには、ある種の不屈の精神が必要だ。

ジェフが成功したマジシャンであることは誰もが知っている。確かに彼は印象的なパフォーマーだ。数多くのテレビ出演や世界中での演技によって、一般の人でも「マスクの男」を知っている。マジックという限られた小さな分野で“活躍”する多くのマジシャンとは違い、ジェフは世界中で知られている世界的なマジシャンなのだ。

彼はその知識とビジョンを、自分だけのものにしても良かったはずだ。しかしその代わりに、仲間に助言する道を選んだ。彼が創設し有名になったマジック&ミステリー・スクールはこんにち、そして未来においてもマジックシーンを形作る大きな勢力になっている。ジェフのビジョンと情熱は、彼一人で抱えるには強烈すぎたのだ。

長く続けられている世界中の生徒とのやり取りが、マジックという特殊な分野でおこる問題に対してのユニークな視点を彼にもたらした。そして厳選された素晴らしいミステリー・スクールの教授陣に支えられている彼の知性が、そのような問題に対する実践的な解決法を生み出すのだ。

"MAGIC Magazine" に連載されていたジェフのコラムを読んだとき、初めは私が書いた『マキシマム・エンターテインメント』（スクリプト・マヌーヴァ、2015年）の焼き直しになるのではないかと思った。そんな心配は不要だった。重複した内容が出てきても（そしてその数は多くはない）、常にジェフは新しい知見を新鮮な見方で加えていたからだ。

ほとんどのコラムは、彼の幅広い経験から得られた独自の切り口になっており、彼独特の論の進め方がされている。早い段階からこのコラムは永久保存される形、つまり書籍になるべきだと思っていたから、ジェフとラリー・ハスが同じ結論にたどり着いたことを知って嬉しくなった（その前書きを頼まれたのは本当に光栄なことだ）。

何人かのマジシャンから、『マキシマム・エンターティメント』の続編は書かないのかと聞かれたことがある。いまあなたが持っているこの本が、その続編であると心から感じる。この本にあなたが出会ったことは、賢明かつ幸運な出来事だろう。

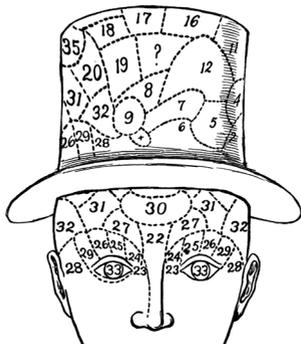
これをよく読むことだ。ジェフ・マクブライドのビジョンがあなたをより幸せにさせ、充足させ、そして何よりも、より良いパフォーマンスにしてくれるだろう。

ケン・ウェバー

2011年11月

ニューヨーク、ロング・アイランドにて

⇒|| 第38章 ||⇐



Internship

インターンシップ

ショー・ドクター様

私はパフォーマーとしてのアイデンティティーや個性を探そうと頑張っているところで、自分が何者であり、何者になるべきか見つけるのに一番いい方法はどのようなものでしょうか？ —アーロン・V

この質問はマジックの表現の本質を突いている。すごいCGや特撮技術だけでいい映画が出来るわけではないのと同じように、マジックを見せるというのはただ驚くべきテクニックを見せ付けることではない。マジックを本物の劇場パフォーマンスにするには、人の感情について研究しなければならない。またどのように情報を集め、その知識を独創的な表現のために使うのか、つまり自分がどのようにものを学び、成長するのもも探究する必要がある。まずは、他人の真似をすることで学ぶのが良いだろう。そうすることで技術の基礎を吸収できるからだ。しかしその技術を芸術に変えるには、「物事を革新させる方法」を学ぶ必要がある。

大きな間違い：多くの生徒がYoutubeやDVDを見るだけで技術を身につけられると思っている。座って映像を見るだけで技術を身につけたピアニストやバレエ・ダンサーはいない。私は何年も前に現場での訓練が必要なのだ気づいた。謙虚になって他人に教えを請う必要があったのだ。また同時に、突破口を開くにはリスクを冒さなければならないことにも気がついた。安全地帯から飛び出て、地元を去り、良い師を探すために

都会に出る必要があったのだ。最も大きな間違いは、なんでも自分一人で出来ると思ってしまうことだ。

ブレイク・スルー：名人の下で学び始めたときに、大きなブレイク・スルーがおきた。しかしそのためには、毎回自分のヘタさ加減に打ちのめされながら、全く分野違いで完全に初心者である演技やダンスのクラスに通う必要があった。私にとってニューヨークは、新兵訓練施設のようなものだった。演技というものについてよく分かっているつもりでいたが、指導者たちの知識や経験の前ではいかに自分が傲慢だったかを思い知らされるだけだった。

インターンシップ：自分に合うステージ・ペルソナを見つけるまでに、いろいろと試す必要があった。最初はマジックで尊敬している人たち、主にジェフ・シェリダンやリチャード・ロスなどを真似ることから始めた。そうして何年か過ぎしながら、知識や技能の幅を広げ、演劇やダンス、音楽について勉強した。ニューヨークではポール・カーティス・アメリカン・マイム・シアターでパントマイムを学び、バレエをいろんなアカデミーで習い、アーロン・バンクスからマーシャル・アーツを、ジェフ・シェリダンやボビー・バクスター、ルー・ランカスター、フランク・ガルシアからマジックを学び、ハリー・ロレインとは何時間もマジックについて語り合った。そしてここで学んだことや経験したことを全て演技に落とし込むことに励んだ。

昼に学び、夜に試す：ニューヨークで学んでいたときは、昼に学んだことを夜に試すということをしてきた。ルー・ランカスターがクラブ・イビスでの仕事を見つけてきてくれたので、このトレンディなナイトクラブで、毎晩新しい演技や新しい現象、衣装、音楽、振り付けを試すことが出来た。つまり質の高い訓練を受けて、毎日演技が出来る会場を見つけるべきだ、ということだ。

演技と即興：ほとんどの大学で演劇講座が開かれている。地元の大学で継続教育の講座があるかどうか調べてみよう。たしかに、最初は馬鹿らしく感じるかもしれないが、それが大事なのだ。いい指導者やディレクターから学ぶことで、恐れや不安定さからくる限界を突破することができる。

創造力を鍛える：自分に最も影響を与えたパフォーマーのリストを作ろう。そしてそのリストに載っているうち、2人の要素を受け継いだ子供を想像する。その人はどんな格好をするだろう？ 言動はどうだろう？ どんな道具を使って、どんな音楽を使う？ 私が若かった時はこれと少し違うことをした。私はロック・スターのアリス・クーパーがカード・マジックをしたらどうなるだろうかとか、侍がリンクリング・リングを演じた

らどうなるかと自問していた。

調査する：参考になる良書をいくつか挙げておこう。

トビアス・ベックウィズの『ビヨンド・ディセプション』（スクリプト・マヌーヴァ、2015年）にはマジシャンが「自分らしさを見つける」のに役立つ訓練や、ブレインストームのテクニックが多数紹介されている。

キース・ジョンストンの『インプロ 自由自在な行動表現』（而立書房、2012年）は即興演劇、キャラクターや行動をどう選べばいいかについて深い考察をしている素晴らしい本だ。他の章でも述べたように、私はこの本がきっかけで、予期しない状況に陥ったときの対処方法を変えた。ジョンストンは仮面を使った訓練についても何章かに渡って書いている。

ケン・ウエバーの『マキシマム・エンターテインメント』（スクリプト・マヌーヴァ、2015年）は私が今まで読んできたステージ・パフォーマンスの実用的側面について書かれた本の中で、最高のものだ。真剣なマジシャンなら一人一冊は持って、深く読み込むべきだ。

ライブ・パフォーマンスを見る：刺激を受けよう。外に出て最高のエンターテイナーたちのショーを見に行こう。彼らがどのように想定外の状況に対応するのか見るのだ。ステージ上でしていること以外にも、意識して目を向けよう。演出や照明、そのほかの演劇の要素を良く見るのだ。これらの要素は全て、その人が表現しているキャラクターの一部なのだ。

汝自身を知れ：自分に合うステージ上のキャラクターを探す作業に、終わりはない。アポロン神殿の門にも「汝自身を知れ」と書かれている。多くの演劇様式を試し、それを達人たちの指導の下で経験してきた事と融合させることで、マジックのパフォーマンスに使える個性を目覚めさせる魔法の薬を見つけられるだろう。

マジックは良薬である。

ジェフ・マクブライド

ジェフ・マクブライドは、世界を牽引するマジシャンの一人として広く知られている。彼のマイムやマスク、カブキ劇、ワールドクラスのスライト・オブ・ハンド、大掛かりなイリュージョンを組み合わせた革新的なマジックのスタイルは、非常にユニークな体験を与えてくれる。

彼は国際的に活動しており、6大陸の様々な国で演技をしてきた。アメリカの主要なテレビ局のほぼ全てに出演経験がある。ラスベガス・ストリップでは定期的に主役としてショーを行い、"Las Vegas Review-Journal" 誌では「他のマジシャンの1光年先を行っている」と評価され、ラスベガスで最高のマジシャンと評された。彼のショーは香港・アート・フェスティバル、バルセロナ・オリンピック・アート・フェスティバル、ニューヨークのオフ・ブロードウェイ、ラジオ・シティ・ロケッツのツアーで同様に非常に高く評価されている。

ジェフは現代で最も尊敬されているマジシャンの一人である。ハリウッドのアカデミー・オブ・マジカル・アーツによるマジシャン・オブ・ザ・イヤーをはじめ、モンテカルロではインターナショナル・グランプリ・オブ・マジックを3度受賞。その他多くの賞を受けている。

また彼はパフォーマーとしてだけでなく、マジックの指導者としてもトップレベルである。スミソニアン、ディズニー・インスティテュート、インターナショナル・ブラザーフッド・オブ・マジシャン、センター・フォー・シンボリック・スタディーズなど幅広い企業に対してレクチャーやワークショップを開いてきた。また、世界中のマジック雑誌に多くの記事を寄稿している。ユージン・バーガーとの共著である "Mystery School" (2003) や "Gift Magic: Performances that Leave People with a Souvenir" (2010) (共著) などの著作がある。

ラスベガスにおいてマクブライド・マジック&ミステリー・スクールを創設。世界屈指のマジシャンのための学校と評される。1991年から、ミステリー・スクールやマスター・クラス、マジック&ミーニング・カンファレンスなどのマジックの演技をすることに特化したクラスを含め、世界中のマジシャンに幅広い教育を行っている。

以下の web サイトでより詳しい情報を入手できる (英語) :

<http://www.mcbridemagic.com>

<http://www.magicalwisdom.com>

ローレンス・ハス博士

ローレンス・ハス博士は、テキサス州シャーマン、オースティン大学で人文科学を教えている教授であるとともに、ラスベガスにあるマクブライド・マジック&ミステリー・スクールの副学長である。パフォーマー、教師、作家、出版社としてマジックの世界に身を投じるため、2010年に大学での教鞭を置いた。

彼のマジックショーは楽しいだけでなく、古き日の文化講演会のように様々なことを学ぶこともできる。驚きに溢れる芸術的なマジックと、気持ちを高揚させる思想を組み合わせているのだ。彼はアメリカを初めとする世界中の劇場やナイトクラブ、大学、医学校、公開討論、マジック・コンベンション、企業イベントなどで演技をしている。ラスベガスと、ハリウッドにある世界的に有名なマジック・キャッスルに定期的に出演している。

ドクター・ハスは作家として、そして優れたマジックの指導者として様々な賞を受賞している。1999年から2010年の間、大学で正規の講義としてマジックを教えていた（アメリカの高等教育の中では非常に稀だ）。そのマジックを指導する腕前を買われ、マジシャンやコンベンションで様々なレクチャーやセミナー、ワークショップの依頼を受けるようになった。毎年、マジック&ミステリー・スクールでジェフ・マクブライド、ユージン・バーガーとともにマスター・クラスで教えている。

彼は "Inspirations: Performing Magic with Excellence " (2015)、 "Transformations: Creating Magic Out of Tricks" (2007)、 "Gift Magic: Performances that Leave People with a Souvenir" (2010、共著) などの世界的にベストセラーとなったマジック関連書籍の著者や共著者でもある。ほとんどすべての雑誌、ネット・マガジンに演技についてのエッセイを投稿しており、4言語に翻訳されている。

彼のマジックに対する独創的なアプローチは、ニューヨークタイムズ、USA トゥデイ、クロニクル・オブ・ハイヤー・エデュケーション、AP通信などに取り上げられた。それに加え、ディスカバリー・チャンネル、ナショナル・パブリック・ラジオ、韓国テレビ、TED などに出演しただけでなく、ドキュメンタリーなどでも数え切れないほどテレビやラジオにインタビューを受けている。

以下の web サイトでより詳しい情報を入手できる（英語）：

<http://www.LawrenceHass.com>